沖縄生きもの探求シリーズ　沖縄本島に持ち込まれたヤエヤママドボタル

ホタル外来種！在来種

オキナワマドボタルの幼虫　体長は2cm前後で小さい

見分ける！

希（まれ）にふち模様のとぎれない幼虫がいるが境界がぼやけくっきりしていない（オキナワ）

オキナワスジの親（成虫）
オス・メスとも光って飛びます
ふつうホタルといえばコレです！
体長7mmでないさい

オキナワスジボタルの幼虫
餌は小さなカタツムリ HIKARIMASU

ケテオビセダボタルの幼虫
餌はミミズ（汗）光ります！

クメジマボタルの幼虫
餌はカワニナ
光ります！
水中にすむ県内唯一のホタル
（※久米島固有種です）

クメジマボタル
オス親（成虫）
小さく光り
群れ飛ぶ

シラユキヤマタカマイマイ
本島内で遺伝的に異なる6集団（！）

アマノヤマタカマイマイ
本島南部の固有種
ヤエヤママドボタルにより壊滅的被害

アマノの半径石
本島南部の洞窟

洞窟性のカタツムリ
長い触角の先に黒目があります
新種候補　本島中部

ヘリトリケマイマイ
世界で北部の1km四方（！）
にだけすむ固有種（こゆびル）

オキナワヤマタカマイマイ
一番多い白くて縞があるタイプ

これもオキナワ
黒いタイプ

ヤンバルヤマタカマイマイ
あずき色のタイプ

ヤンバルですが白くて美しい中部の個体群（こたいぐん）
北部より小型・殻の背が高い

アオミネカタマイ
名前のとおり乾燥地帯（なんたいぶ）が青い（みどり？）

殻に毒（どく）がフルフルあまりホタルは食べていません

ザ・カタツムリ！

長い距離を移動できないので、島ごとに進化（しんか）しています
沖縄本島には100種類以上のカタツムリがすんでいます

ミニュリカマイマイ
石灰岩の岩場にすんでいます

こまかい毛が生えています！

"ヤマタカ"マイマイは樹上（木のうえ）にすんでいます

古来からホタルとカタツムリは共存してきました
長い年月をかけてできあがった沖縄本島の自然が崩れようとしています

ヤエヤママドボタルの幼虫　餌はさまざまな種類のカタツムリ　体の大きさは6CMを越える日本で最大のホタル！

そもそも日本（八重山諸島）にすんでいて、物資につって沖縄本島に持ち込まれたと考えられています
こうした生きものを国内外来種（こくないがいらいしゅ）といいます
県内各地で独自に進化したさまざまなカタツムリがいます。大量に餌になることで、いくつかのカタツムリは絶滅の危険性が高まっています　～ 沖縄本島では沖縄県による防除（ぼうじょ）の対象です ～

生きるため食べる！生態系が崩れる！

大きくなると手のひら一杯！

オレンジ色は幼虫のようなメスの親（成虫）
羽根が退化（たいか）していて飛べません

小さな幼虫も大きなカタツムリを襲います

蝙（さなぎ）になる直前の幼虫
カタツムリに歯を突っ込み、溶かしてスープにして食べます

足先の爪（つめ）で木に登ります

家のまわりにそすみます
そのため、物資と共に移動しやすい

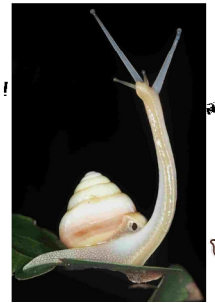
カタツムリが多いに
あとの動物（ぶつぶつ）
をたべることが
できれべています

集まる！

オスの親（成虫）はメスのにおい（フェロモン）に集まることが分かっています
幼虫も集団で餌に群（むら）がります

沖縄県ではこうした習性（しゅうせい）を利用した技術開発に取り組んでいます

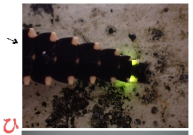
VS



南の日は暑しそう

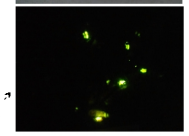
すてき

光る！



ようちゅう

さなぎ



せいちゅう
親です

親（成虫）、卵、幼虫、蝙
みんな光ります

2024年（令和6年）8月
株式会社沖縄環境保全研究所　製作

ヤエヤママドボタルについて
沖縄外来種.com